

1-2 浜田市の公共交通の課題

(1) 社会環境の変化への対応

①人口の減少と過疎化への対応

人口減少が続く中、病院、商店、学校などの移動目的地の集約化や統廃合等が予想され、公共交通の運行も適宜対応する必要があります。

また、移動の総需要自体も減少するため、公共交通の利用者減少への対応が重要となります。

さらに、山間部の集落などでは、集落の維持そのものが困難になる地区も予想され、地域の生活を支える交通確保が必要となります。

②高齢社会への対応

クルマを利用できない高齢者等の移動手段を確保するとともに、高齢ドライバーが免許返納しても生活が可能となる公共交通環境の構築が必要となります。

③過度なクルマ利用からの脱却

温室効果ガス削減に向けて、マイカーへの過度な依存を軽減し、環境負荷の少ない地域づくりに向けた公共交通施策の推進が必要となります。



(2) 持続可能な公共交通体系の構築

①財政負担の抑制

持続可能な公共交通体系を構築するためには、市民の生活を支える公共交通環境を整備すると同時に、財政負担の抑制を考慮する必要があります。

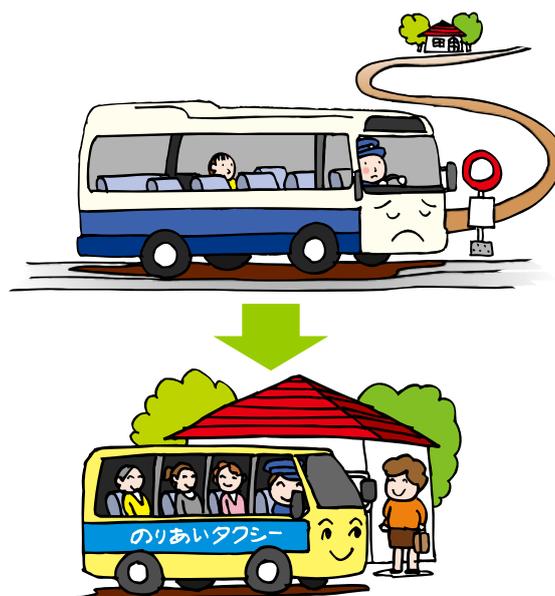
そのため、地形条件や居住形態等の違いを踏まえ、それぞれの条件下における需要に見合った交通サービスの提供が求められます。

②利用しやすい交通サービス

公共交通の維持存続に向けては、利用促進が不可欠です。そのためには、利用者が使いやすい交通の基本的サービスを充実させる必要があります。具体的には、各種生活活動に対応した運行時間帯、ルート、料金設定、乗り継ぎ環境、情報提供などの充実を図る必要があります。

③地域が支える公共交通

人口減少など、公共交通を取り巻く環境が厳しくなる中、地域自らが公共交通を支える必要があります。そのため、公共交通の計画策定段階から市民と『協働』で行い、利用して支える意識の醸成や市民自らが運行主体として関わる活動などを推進する必要があります。



(3) 交通まちづくりの推進

①中心部の利便性向上

公共交通は、市中心部のまちの魅力を高めるための社会基盤のひとつとして、まちづくりの重要な要素となります。

特に、本市の中心部の拠点施設となる島根県立大学、浜田医療センター、各種商業施設、高等学校などへのアクセスや周遊性の改善、自転車等の他の交通手段と組み合わせた総合的な交通体系の充実などを図り、利便性を向上させることが効果的です。

②市民の生活を支える移動サービス

市民の生活を支えるために、通勤、通学、通院、買い物といった生活活動がしやすくなるような交通サービスを提供する必要があります。

また、バス停などから遠い交通空白地域の解消を図ることで、高齢者の徒歩などによる移動負担を軽減する必要があります。

③観光の魅力を高める交通サービス

市民だけでなく他地域からの来訪者に向けた交通サービスの提供も重要であり、市内に点在する温泉などの観光スポットへのアクセス交通を充実するとともに、JRや広域高速バス等との接続環境の向上を図る必要があります。

また、市内各地で行われている産直市などと連携した取り組みも必要です。

